

項目	自己評価	めざす児童像	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校運営協議会委員コメント	評価
チャレンジ精神	S A B C	主体的に挑戦し、自らを振り返りながら目標に向かって努力することができる児童	・学級や児童個々の目標を設定させ、段階的に目標に向かわせる。 ・学校行事(鉄棒発表会・水泳大会等)に向けて意欲的に取り組める指導・支援を行う。 ・各取組ロード(鉄棒・縄跳び・持久走等)を作成し、段階的に目標に向かわせる。 ・学級での係の仕事を用意的に行えるように配慮する。	●めざす児童像アンケート 1 主体的にチャレンジする気持ち「そう思う」60%以上 2 失敗経験からの学び「そう思う」70%以上 3 将来の夢や目標に努力「そう思う」70%以上	アンケート対象 R3(全児童) R2(小5・6年) ●めざす児童像アンケート 1. 「自分からすすんで、チャレンジする気持ちを大切にしている」…そう思う74%(R2:55%) 2. 「うまくいかなかった経験からの学びを大切にしている」…そう思う71%(R2:85%) 3. 「将来の夢や目標に向かって努力している」…そう思う69%(R2:60%) ■チャレンジする気持ちを大切に思っている児童が多くなってきた。今後も目標に向かって努力する取組を計画的に行うとともに、子どもたちの将来の夢や目標を共有し具体的な支援をしていきたい。	1. 肯定評価は97%、チャレンジすることの大切さは意識できている。今後は個に応じた支援と児童のチャレンジを肯定的に評価し、更に意欲を高めたい。 2. 肯定評価97%、うまくいなくても諦めない姿勢が育まれている。うまくいかないのは、本当の失敗ではなく成功への大切なプロセスであるということを活用(学校行事・係活動・委員会活動等)を通してアドバイスしていく。 3. 肯定評価は91%、将来の夢や目標について考えさせ、自分の取組と結果を自己評価できる力を身に付けさせる。	・子どもの将来の夢や目標が見える環境づくりを地域と一緒に支援していければと思います。 ・目標に向かって取り組んでいる傾向がみえます。 ・改善方法に準じてそれぞれの項目を達成できる様に努力し、教職員一丸となって取り組みましょう。 ・個々の性格を上手に前へ出すことができていないように思われます。 ・児童個々の目標を見てみたいです。(どんな目標があるのか?)	S A B C
コミュニケーション力	S A B C	場に応じた挨拶や、受け答えができ、相手の気持ちを考えながら、『話す・聞く』ができる児童	・発達段階に応じたマニュアル(「聞き方名人」、「話し方名人」)を作成しモデルを示す。 ・個々が生き生きとするような活動を設定する。 ・縦割班(掃除)や、登校班(挨拶運動)を個々の関係に配慮し編制する。 ・挨拶への取組強化月間を設定する。	●めざす児童像アンケート 1 自分からすすんで挨拶「できている」75%以上 2 人の考えや発表を大切に聞く「できている」80%以上 3 自分の思いや考えを伝える「できている」60%以上	●めざす児童像アンケート 1. 「自分からすすんで人にあいさつをしている」…できている71%(R2:75%) 2. 「人の考えや発表を大切に聞いている」…できている77%(R2:70%) 3. 「自分の思いや考えを伝えることができる」…できている68%(R2:40%) ■「自分の思いや考えを伝えることができる」児童の割合が増えてきた。「あいさつ」については学校外において、地域の方に伝わる「あいさつ」ができるよう取り組んでいく必要がある。	1. 相手に伝わる「あいさつ」の大切さを伝えていくとともに、「あいさつ」ができた時は褒めて、評価する。「あいさつすると気持ちがいい」という経験を積み重ねる。挨拶への取組強化期間を設定する。 2. 3. 友達の意見や考えをきちんと聞き、自分の思いや考えを伝え合う活動や場面を日常の授業や行事に意図的に設ける。	・学校も地域住民と一緒に参加する取組を積極的に考えてくれているため、子どもたちも明るくみえます。 ・自分から進んで挨拶できない児童がいます。もう少し頑張って元気よく挨拶できるように取り組みましょう。 ・改善方法に準じてそれぞれの項目を達成できる様に努力し、教職員一丸となって取り組みましょう。 ・努力していることを評価したいと思います。 ・「個々の関係に配慮し編制する」の部分を詳しく聞きたいです。 ・あいさつ名人もあれば面白いと思います。	S A B C
自尊感情	S A B C	自分や友だちの個性を大切にしながら、主体的に取り組む児童	・お互いの良いところを認め合うような取り組みや声かけを行う。(フラワーメッセージ、良いところ見つけ) ・ペア活動、グループ活動などで、関係づくりを進める。 ・日常的に言葉かけをし、子どもたちを評価する。	●めざす児童像アンケート 1 自分にはよいところがある「肯定的評価」90%以上 2 人を思いやる心を大切に「そう思う」90%以上 3 自分の考えや判断を大切に行動「そう思う」85%以上	●めざす児童像アンケート 1. 「自分には良いところがある」…肯定的評価91%(R2:95%) 2. 「人を思いやる心を大切にしている」…そう思う83%(R2:85%) 3. 「自分の考えや判断を大切に行動している」…できている83%(R2:85%) ■児童の自尊感情は高まっている。今後は「そう思う」という児童がさらに多くなるよう取り組みたい。	1. 自尊感情を高めるには、自分は温かく包み込まれているという感覚が大事である。一人ひとりの児童についての理解を深め、更に温かい学級・学校集団づくりに向けて取り組む。また、フラワーメッセージの取組内容を充実させる。 2. 3. 「思いやり」「自分の考えや判断」を大切に行動をすることは、まず相手の気持ちをくみ取ることができることが重要である。縦割り班活動など異年齢のたくさんの人と関わる活動を仕組んでいく。 1. 2. 3. 周りの人(友達・家族・地域の方)のために何かをし、周りから必要とされる・感謝される経験を積み重ねる。	・以前に比べると自尊感情が高い子どもが多くなったと思います。人を思いやる心等、複式学級の良いところを伸ばしていけると思います。 ・改善方法に準じてそれぞれの項目を達成できる様に努力し、教職員一丸となって取り組みましょう。 ・努力していることを評価したいと思います。 ・良いところを見つけ、どういう事に活かせるか?まで話し合えたら実になりそう。 ・フラワーメッセージの取組内容を詳しく知りたいたいです。	S A B C
郷土愛	S A B C	甲浦の地域の歴史について知り、これからの地域について考えることのできる児童	・総合的な学習の時間に地域学習を設定し、授業で郷土に対する学びを深める。 ・様々な行事を通して地域の方との交流を深めさせる。 ・高齢者に暑中見舞い・年賀状を送り、地域の方を気遣う気持ちを育てる。	●めざす児童像アンケート 1 自分の住んでいる地域が好き「肯定的評価」90%以上 2 地域の魅力を伝える「肯定的評価」90%以上 3 地域に貢献できる人になる「肯定的評価」90%以上	●めざす児童像アンケート 1. 「自分が住んでいる地域が好き」…肯定的94%(R2:95%) 2. 「地域の魅力を伝えることができる」…肯定的88%(R2:85%) 3. 「地域のために貢献できる人になりたい」…肯定的94%(R2:95%) ■感染症対策の中で、活発な地域との交流、学習が十分できなかったのが残念であった。	1. 地域とのつながりの中で児童の郷土愛は育まれていく、次年度も地域の教育力を生かした学習を積極的に取り入れる。特に、食を通じて地域を理解すること、食文化の継承を図ること、自然の恵みや勤労の大切さなどを理解することを目的とした学習を行いたい。 2. 地域学習で学んだことを発表したり情報発信をする場を設定する。 3. SDGsについて学び、地域に貢献できる活動を意識させ、学習・活動に取り組みさせる。また、高齢者の方に暑中見舞い・年賀状を送り、感謝を伝える活動を継続する。	・子どもたちが、これから新しい地域の発見を楽しく学習してもらいたいです。 ・改善方法に準じてそれぞれの項目を達成できる様に努力し、教職員一丸となって取り組みましょう。 ・努力していることを評価したいと思います。 ・他の地域を知ることもまた郷土を知ることにつながると思います。	S A B C
学力向上	S A B C	自分で決めた計画に沿って学習したり、発表したりできる。これまでに学習してきたことや、できることを使うことができる児童	・授業改善を推進する。(自力解決・共有の時間の設定) ・加力学習で基礎学力の定着を図る。 ・放課後学習で学習内容の幅を広げ、応用力を高める。 ・自主学習で主体的に学習する力を養う。(「家庭学習の手引き」の作成)	●めざす児童像アンケート 1 課題を解決しようと積極的に取り組む「肯定的評価」90%以上 2 考えを深めたり、広げたりしている「そう思う」70%以上 3 家庭学習を目標時間に取り組む「できている」80%以上	●めざす児童像アンケート 1. 「授業では課題解決に向けて、自分から積極的に取り組んでいる」…肯定的89%(R2:90%) 2. 「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできている」…そう思う69%(R2:60%) 3. 家庭学習は、学年の目標時間に取り組んでいる」…できている60%(R2:80%) ■本年度、授業づくり講座(複式・算数科)の研究指定を受け、複式の良さを生かした授業づくり、指導方法について深く学ぶことができた。家庭学習(低:30分、中:40分、高:1時間)は低学年からの内容充実に向けた取組が大事である。	1. 児童が意欲的に取り組もうとする課題設定、学習内容の工夫改善を行う。 2. 毎日の授業のなかで友達の意見を聞き取り、相手に自分の考えや思いをわかってもらえるような場面を意図的に設定する。 3. 夢や希望の実現には家庭学習の定着が大切であることを伝えていくとともに、読書、自主学習ノートの取組を進める。 1. 2. 3. 複式教育の指導改善を図り、児童が主体的に取り組む授業づくりを行う。また、加力学習、放課後学習等、個に応じた指導方法を工夫し、すべての児童の学力定着と向上を目指す。	・課題に向けて頑張ります。 ・改善方法に準じてそれぞれの項目を達成できる様に努力し、教職員一丸となって取り組みましょう。 ・学校だけでなく地域・家庭が共に学力向上に取り組むことが大だと思えます。 ・努力していることを評価したいと思います。 ・夢や希望の実現のためには家庭学習が大事だということを、子どもたちにどのように伝えていくのか知りたいです。	S A B C
生活習慣	S A B C	生活リズムの改善点を考え実践し、時間やルールが守れる児童	・保健朝礼、健康観察カード、いきいきカードなどにより意識の向上を図る。 ・月ごとに目標を設定し、振り返りをし、生活改善を図る。 ・道徳科での学びを生かす。 ・食育により、食の大切さを理解させる。 ・講演会等により、生活リズムによる影響を考えたり、改善に生かす。	●めざす児童像アンケート 1 毎日、朝食を食べている「できている」100% 2 時間やルールなど約束を守る「できている」80%以上 3 当たり前のことを当たり前にできる「肯定的評価」90%以上	●めざす児童像アンケート 1. 「毎日朝食を食べている」…できている83%(R2:80%) 2. 「約束した時間や決められたルールを守っている」…できている69%(R2:75%) 3. 「当たり前のことが当たり前にできている」…肯定的評価97%(R2:95%) ■生活リズムの確立に向けた取り組みを今後も継続して行っていきたい。ゲーム、携帯等の活用の仕方についての啓発が課題である。	1. 毎日の健康調査、東洋っ子生活リズム調査等を通して、個々の児童の現状を把握し評価と改善策を全教員で共有する。また、食育の授業を通して食の大切さについて理解させる。 2. 月目標の守り方など、学級会の話し合い活動を充実させ、皆が理解を深め取り組めるようにする。 3. 縦割り班掃除など協力して取り組んでいる。今後も頑張ったこと、できたことを評価し、意欲の向上を図る。	・達成できていない課題を分析してから取り組みましょう。 ・改善方法に準じてそれぞれの項目を達成できる様に努力し、教職員一丸となって取り組みましょう。 ・生活習慣は家庭環境が大きく影響するため、定期的に保護者向けの生活習慣アンケートなども実施する等、工夫が必要なのかもしれません。 ・努力していることを評価したいと思います。 ・「当たり前」の内容について、おおまかに知りたいです。	S A B C

※評価欄 評定S「優れている」、評定A「良い」、評定B「おおむね満足」、評定C「要改善」

※この評価書は、年度末に学校のホームページで公表